

緊急時にあわてず無事に避難するには、事前の準備と確認が必要です。

避難行動について知ろう

水平避難(立退き避難)

浸水、家屋倒壊・流失、土砂災害の危険区域から離れ、安全な場所へ避難します。

離れた場所への移動のため、避難に一定の時間が必要です。事前に安全な避難経路や移動手段を確認したうえで、余裕を持って避難を開始しましょう。

垂直避難(上階等移動)

安全な場所へ水平避難する時間がない場合や逃げ遅れてしまった場合は、命を守るために、自宅の2階や近所の頑丈な建物のなるべく高い階など危険が及ばない場所に避難します。

あくまで命を守るための行動であり、浸水が長時間継続した場合や危険区域内に孤立した場合の問題点も考えておきましょう。豊田市には浸水が1週間続く箇所もあります。

屋内安全確保(在宅避難)

浸水、家屋倒壊・流失、土砂災害の危険がない場所または影響が少ない場所で、屋外に避難する方がかえって危険と判断される場合は、自宅などその場に留まり、安全を確保します。

電気・水道・ガスの停止に備えた準備や食料、水、常備薬などの用意を日頃からしておきましょう。

避難先を考えよう ・表面のマップにアイコン表示がある避難先は「指定緊急避難場所」と「一時避難場所・一時車両退避場所」です。
・避難先はこの2つである必要はありません。下で紹介する施設等を参考に、自身や自宅の状況に応じて最適な避難先を考えておきましょう。

指定緊急避難場所

災害の危険から身を守るために緊急的な避難先として市が指定している施設です。風水害時に使用できない緊急避難場所もあります。



車中泊

安全な場所に停めた車中の避難です。プライバシー確保に有効ですが、エコノミークラス症候群対策など体調管理に注意が必要です。指定緊急避難場所駐車場のほか、一時的に開設される一時避難場所や一時車両退避場所を活用しましょう。



自宅

屋外に避難する方がかえって危険な場合があるため、屋内で身の安全を確保する在宅避難も考えましょう。危険を感じたら自宅の2階へ垂直避難するなど身を守りましょう。



自主避難場所

自治区が指定する避難場所です。緊急避難場所が開設されるまでの待機場所や住民の避難所など地域によって指定の有無や取扱いが異なります。



親類・知人宅

安全な場所に身を寄せられる親類や知人がいれば、避難先として活用を考えましょう。日頃から避難について相談しておきましょう。



緊急退避場所(最後に命を守る場所)

逃げ遅れた場合などに、命を守るため緊急的に安全を確保する場所です。すぐに移動できる少しでも安全な場所を、あらかじめ緊急退避場所として決めておきましょう。



避難先選定フローチャート(参考)

スタート!

自宅付近に災害のリスクがないか、あっても影響が極めて低い。

はい

自宅

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親類や知人はいますか?

はい

親類、知人宅

いいえ

地域で避難先の取り決めがある。
安全な自主避難場所に避難できる。

はい

自主避難場所

いいえ

指定緊急避難場所

プライバシーを確保したい場合など

車中泊

